

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 地理歴史 科目 地理総合

教科： 地理歴史 科目： 地理総合 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（1組～7組：）

使用教科書：（ 帝国書院「高等学校新地理総合」 帝国書院「新詳高等地図」 ）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を概念などを活用して多面的・多角的に考察したり社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象についてよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して概念などを活用して多面的・多角的に考察したり地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や考察、構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象についてよりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	能	配当 時数	
1 学 期	地図と地図情報システム ①日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。現代世界のさまざまな地理情報について地図や地理情報システムなどを用いてその情報を収集し読み取りまとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ②地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し表現する。 ③地図や地理情報システムについてよりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究解決しようとする態度を養う。	地球上の位置と時差 地図の役割と種類 ワークシート 小テスト	①日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。現代世界のさまざまな地理情報について地図や地理情報システムなどを用いてその情報を収集し読み取りまとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 ②地図や地理情報システムについて位置や範囲、縮尺などに着目して目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し表現している。 ③地図や地理情報システムについてよりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究解決しようとしている。	○	○	○	4
	結びつきを深める現代社会 ①現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 ②現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して主題を設定し世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し表現する。 ③現代社会の地域構成についてよりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究解決しようとする態度を養う。	現代世界の国家と領域 グローバル化する世界 ワークシート 小テスト	①現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解している。 ②現代世界の地域構成について位置や範囲などに着目して主題を設定し世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し表現している。 ③現代世界の地域構成についてよりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究解決しようとしている。	○	○	○	6
	中間考査			○	○		1
生活文化の多様性と国際理解 ①世界の人々の特色ある生活文化を基に人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり影響を与えたりして多様性をもつことや地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。世界の人々の特色ある生活文化を基に自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。 ②世界の人々の生活文化についてその生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して主題を設定し多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し表現する。 ③生活文化の多様性と国際理解についてよりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究解決しようとする態度を養う。	世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活 世界の言語・宗教と人々の生活 ワークシート 小テスト	①世界の人々の特色ある生活文化を基に人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり影響を与えたりして多様性をもつことや地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ②世界の人々の生活文化についてその生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して主題を設定し多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し表現している。 ③生活文化の多様性と国際理解についてよりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究解決しようとしている。	○	○	○	8	

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 地理歴史 科目 歴史総合

教科：地理歴史 科目：歴史総合 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～7組

教科担当者：（1組： ） （2組： ） （3組： ） （4組： ） （5組： ） （6組： ） （7組： ）

使用教科書：（帝国書院「明解 歴史総合」）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代史の諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる歴史を理解するとともに、諸資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	近現代史に関わる事象の意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史上の課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代史の諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	江戸時代の日本と結び付く世界 ①18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について理解する。 ②「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し、自分の言葉で表現する。 ③18世紀の交易と現代の貿易との違いについて考察し、その変化の要因を追究する。	・アジアの中の江戸幕府、成熟する江戸社会、清の繁栄と結び付く東アジア、アジア・アメリカに向かうヨーロッパ ・パワーポイント、ワークシート ・資料集	①18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について理解している。 ②「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し、自分の言葉で表現している。 ③18世紀の交易と現代の貿易との違いについて考察し、その変化の要因を追究しようとしている。	○	○	○	0:00
	欧米諸国における近代化 ①市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯を理解する。 ②市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現在社会との関わりを考察し、自分の言葉で表現する。 ③市民革命や産業革命が現代社会に与えた課題について、解決策を追究する。	・イギリスの革命とアメリカの独立、フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け、フランス革命の影響と国民意識の芽生え、産業革命で変わる社会、イギリスの繁栄と国際分業体制 ・パワーポイント、ワークシート ・資料集	①市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯を理解している。 ②市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現在社会との関わりを考察し、自分の言葉で表現している。 ③市民革命や産業革命が現代社会に与えた課題について、解決策を追究しようとしている。	○	○	○	0:00
	定期考査			○	○		1
	近代化の進展と国民国家形成 ①国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況を理解する。 ②国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し、自分の言葉で表現する。 ③国民国家や帝国主義政策が現代社会に与えた影響について、追究する。	・1848年～近代ヨーロッパの転換点、イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化、アメリカの拡大と第2次産業革命、帝国主義と世界の一体化 ・パワーポイント、ワークシート ・資料集	①国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況を理解している。 ②国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し、自分の言葉で表現している。 ③国民国家や帝国主義政策が現代社会に与えた影響について、追究しようとしている。	○	○	○	5
	アジア諸国の動揺と日本の開国 ①欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について理解する。 ②アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し、「西洋の衝撃」の歴史的意義について自分の言葉で表現する。 ③欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が現代社会にどのような課題を生み出したかについて考察し、追究する。	・「西洋の衝撃」と西アジアの変化、南・東南アジアの植民地化、ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争、黒船来航と日本の対応、新体制の模索と江戸幕府の滅亡 ・パワーポイント、ワークシート ・資料集	①欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について理解している。 ②アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し、「西洋の衝撃」の歴史的意義について自分の言葉で表現している。 ③欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が現代社会にどのような課題を生み出したかについて考察し、追究しようとしている。	○	○	○	5
定期考査			○	○	○	1	
	近代化が進む日本と東アジア ①明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について理解する。 ②明治維新の歴史的意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、自分の言葉で表現する。 ③明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会にどのような課題を与えたかについて考察し、解決策を追究する。	・新政府の誕生、近代国家を目指す日本、日本と清の近代化と日清戦争、列強の中国進出と日露戦争、日露戦争が与えた影響 ・パワーポイント、ワークシート ・資料集	①明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について理解している。 ②明治維新の歴史的意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、自分の言葉で表現している。 ③明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会にどのような課題を与えたかについて考察し、解決策を追究しようとしている。	○	○	○	5

2 学 期	<p>第一次世界大戦と日本の対応</p> <p>①国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について理解する。</p> <p>②第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかを考察し、自分の言葉で表現する。</p> <p>③勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現在の社会につながるどのような課題を生み出したのかについて考察し、解決策について追究する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張、総力戦となった第一次世界大戦、ロシア革命と大戦の終結 ・パワーポイント、ワークシート ・資料集 	<p>①国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について理解している。</p> <p>②第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかを考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>③勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現在の社会につながるどのような課題を生み出したのかについて考察し、解決策について追究しようとしている。</p>	○	○	○	4
	<p>国際協調と大衆社会の広がり</p> <p>①ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化を理解する。</p> <p>②新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、自分の言葉で表現する。</p> <p>③ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会においてどのような課題を生み出したのかを考察し、その解決策について追究する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェルサイユ体制の成立、東アジアの民族自決の行方、中東・インドの民族自決の影響、ヨーロッパの復興と大衆の政治参加、大衆社会の出現とアメリカの繁栄、日本における大衆社会の形成 ・パワーポイント、ワークシート ・資料集 	<p>①ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化を理解している。</p> <p>②新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>③ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会においてどのような課題を生み出したのかを考察し、その解決策について追究しようとしている。</p>	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	<p>日本の行方と第二次世界大戦</p> <p>①世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら理解する。</p> <p>②ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、ドイツや日本で大衆がなぜ戦争に協力していったのかを考察し、自分の言葉で表現する。</p> <p>③大衆の戦争への加担という問題を現代社会における課題としてとらえ、その解決策を追究する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌が与えた影響、ファシズムの台頭と拡大、政党政治の断絶と満洲事変、日中戦争の始まり、第二次世界大戦の展開、戦局の悪化と被害の拡大、第二次世界大戦の終結とその惨禍 ・パワーポイント、ワークシート ・資料集 	<p>①世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら理解している。</p> <p>②ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、ドイツや日本で大衆がなぜ戦争に協力していったのかを考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>③大衆の戦争への加担という問題を現代社会における課題としてとらえ、その解決策を追究しようとしている。</p>	○	○	○	7
	<p>再出発する世界と日本</p> <p>①冷戦および冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら理解する。</p> <p>②国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際関係を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかを考察し、自分の言葉で表現する。</p> <p>③大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制における課題が、現代社会にどのような影響を与えているかについて考察し、解決策を追究する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の新しい国際秩序、冷戦の始まり、日本撤退後の東アジア、日本の改革と独立の回復 ・パワーポイント、ワークシート ・資料集 	<p>①冷戦および冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら理解している。</p> <p>②国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際関係を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかを考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>③大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制における課題が、現代社会にどのような影響を与えているかについて考察し、解決策を追究しようとしている。</p>	○	○	○	7
定期考査			○	○		1	
3 学 期	<p>冷戦で揺れる世界と日本</p> <p>①55年体制の形成から高度経済成長に至る日本の動きを、冷戦下の国際情勢を踏まえながらその中に位置づけて理解する。</p> <p>②冷戦下の日本と世界の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、自分の言葉で表現する。</p> <p>③冷戦期における各国の動向、現在の社会においてどのような課題を生み出したのかを考察し、解決策について追究する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ・ソ連の緊張と緩和、冷戦下における日本の復興、第三勢力の形成と脱植民地化、中東戦争とパレスチナ問題 ・パワーポイント、ワークシート ・資料集 	<p>①55年体制の形成から高度経済成長に至る日本の動きを、冷戦下の国際情勢を踏まえながらその中に位置づけて理解している。</p> <p>②冷戦下の日本と世界の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>③冷戦期における各国の動向、現在の社会においてどのような課題を生み出したのかを考察し、解決策について追究しようとしている。</p>	○	○	○	5
	<p>多様化する世界</p> <p>①1960年代から80年代を中心に、冷戦下における各国の選択と経済成長について理解する。</p> <p>②各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、自分の言葉で表現する。</p> <p>③冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会にどのような課題を生み出したのかを考察し、解決策について追究する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・揺らぐアメリカと先進各国の変化、「経済大国」日本の模索、経済発展に取り組むアジア・南米諸国、イスラーム復興と冷戦への影響 ・パワーポイント、ワークシート ・資料集 	<p>①1960年代から80年代を中心に、冷戦下における各国の選択と経済成長について理解している。</p> <p>②各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>③冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会にどのような課題を生み出したのかを考察し、解決策について追究しようとしている。</p>	○	○	○	4

<p>グローバル化のなかの世界と日本 ①冷戦終結の過程とグローバル化の特質について理解する。 ②グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点を自分の言葉で表現する。 ③冷戦の終結とグローバル化の進展がどのような課題を生み出したのかについて考察し、解決策について追究する。</p>	<p>・冷戦の終結と変わる世界構造、冷戦の終結が与えた世界への影響、超大国アメリカと中東情勢、国際環境の変化と日本、グローバル化による国際社会の変容 ・パワーポイント、ワークシート ・資料集</p>	<p>①冷戦終結の過程とグローバル化の特質について理解している。 ②グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点を自分の言葉で表現している。 ③冷戦の終結とグローバル化の進展がどのような課題を生み出したのかについて考察し、解決策について追究しようとしている。</p>	○	○	○	4
<p>定期考査</p>			○	○		1
						合計
						70

高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 地理歴史 科目 日本史探究

教科: 地理歴史 科目: 日本史探究 単位数: 4 単位
 対象学年組: 第 2 学年 1 組 ~ 7 組
 教科担当者: (組:)
 使用教科書: (山川出版社 詳説日本史)

教科 地理歴史 の目標:
 【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解
 【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的

科目 日本史探究 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して深められる日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配時数
1 学期	日本文化のあけぼの ①稲作伝播や地域性の顕著な道具の分布を踏まえ旧石器・縄文・弥生文化について理解する。 ②小国が形成される過程を東アジアとの交流と関連付け考察する。 ③原始社会の特色を踏まえて、時代を通観する問いを表現する。	文化の始まり、農耕社会の成立 パワーポイント、ワークシート	①水稲耕作の伝来・開始が社会に与えた影響を理解し、弥生土器などの出土品から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけている。 ②環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝など文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえ多角的に考察し、根拠を示して表現している。 ③日本の農耕社会の特色とともに、国家の形成につながる社会の変化について考察することを通じ、文化の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	11
	古墳とヤマト政権 ①地域の首長の出現からヤマト政権の権力争いに至る過程を理解する。 ②ヤマト政権による国家形成の過程について、東アジアとの関係を踏まえ考察する。 ③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。	古墳文化の展開、飛鳥朝廷 パワーポイント、ワークシート	①国家の形成と古墳文化について、中国・朝鮮との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 ②日本国内外の史資料をもとに、中国・朝鮮との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③中国・朝鮮との関係に着目して、小国の形成について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	律令国家の形成 ①律令制に基づく国内政治体制について理解する。 ②律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ③東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを追究する。	律令国家への道、平城京の時代、律令国家の文化、律令国家の変容 パワーポイント、ワークシート	①隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。 ②天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。 ③東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。	○	○	○	12
	貴族政治の展開 ①大陸文化の消化と末法思想を前提とした国風文化が展開されたことを理解する。 ②藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ③摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるか考察する。	摂関政治、国風文化、地方政治の展開と武士 パワーポイント、ワークシート	①大陸からの文物の定着を前提として、平安時代にはより日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。 ②国際関係の変化などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達などに着目し、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。 ③平安時代の政治と文化との関係を考察することを通じ、そのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	13
定期考査			○	○		1	
2 学期	院政と武士の躍進 ①院政前後の土地支配構造を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ③古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	院政の始まり、院政と平氏政権 パワーポイント、ワークシート	①貴族政治や土地制度の変容などをとくに資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べ、古代から中世国家・社会の変容を理解している。 ②武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、土地の支配や所有がもつ意味を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③古代との比較を通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。	○	○	○	26
	武家政権の成立 鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を理解する。 ③非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。	鎌倉幕府の成立、武士の社会、モンゴル襲来と幕府の衰退、鎌倉文化 パワーポイント、ワークシート	①諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。 ②武家と公家の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。 ③宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	26
3 学期	武家社会の成長 ①武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、それぞれの文化の関わりについて理解する。 ②南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ③応仁の乱以降、地方政権として登場した戦国大名や各地に展開した年について、諸地域の地理的条件と関連付けて追及している。	室町幕府の成立、幕府の衰退と庶民の台頭、室町文化、戦国大名の登場 パワーポイント、ワークシート	①鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、東アジアとの交流などに着目して、室町時代における政治・文化の形成や融合について理解している。 ②南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③15世紀から16世紀にかけて争乱が多発した理由など、戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	36
	定期考査			○	○	○	1
						合計	140

高等学校 令和5年度（2学年用）教科

地理歴史

科目

世界史探究

教科： 地理歴史 科目： 世界史探究

単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 6 組

教科担当者： (組：) (組：)

使用教科書： (山川出版社 詳説世界史)

教科 地理歴史 の 目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関する理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想した：

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史探究 の 目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	文明の成立と古代文明の特質 ①古代文明や諸地域の歴史的特質について、気候・地形などと関連付けて理解する。 ②古代文明や諸地域の歴史的特質について、気候・地形などと関連付けて多面的・多角的に考察する。 ③古代文明や諸地域の歴史的特質について、見直しをもって学習に取り組む。	・文明の誕生/古代オリエント文明とその周辺/南アジアの古代文明/中国の古代文明/南北アメリカ文明 ・バナーポイント、ワークシート	①古代文明や諸地域の歴史的特質について、気候・地形などと関連付けて理解している。 ②古代文明や諸地域の歴史的特質について、気候・地形などと関連付けて多面的・多角的に考察している。 ③古代文明や諸地域の歴史的特質について、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	11	
	中央ユーラシアと東アジア世界 ①中央ユーラシア、東アジア文化圏の歴史的特質について、両者の違いや関係性に着目し理解する。 ②中央ユーラシア、東アジア文化圏の歴史的特質について、両者の違いや関係性に着目し多面的・多角的に考察する。 ③中央ユーラシア、東アジア文化圏の歴史的特質について、見直しをもって学習に取り組む。	・中央ユーラシア―草原とオアシスの世界/秦・漢帝国/中国の動乱と変容/東アジア文化圏の形成 ・バナーポイント、ワークシート	①中央ユーラシア、東アジア文化圏の歴史的特質について、両者の違いや関係性に着目し理解している。 ②中央ユーラシア、東アジア文化圏の歴史的特質について、両者の違いや関係性に着目し多面的・多角的に考察している。 ③中央ユーラシア、東アジア文化圏の歴史的特質について、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	14	
	定期考査			○	○		1	
	南アジアと東南アジア世界の展開 ①南アジアと東南アジア世界の歴史的特質について、宗教や風土の違いに着目し理解する。 ②南アジアと東南アジア世界の歴史的特質について、宗教や風土の違いに着目し多面的・多角的に考察する。 ③南アジアと東南アジア世界について、見直しをもって学習に取り組む。	・仏教の成立と南アジアの統一国家/インド古典文化とヒンドゥー教の定着/東南アジア世界の形成と展開 ・バナーポイント、ワークシート	①南アジアと東南アジア世界の歴史的特質について、宗教や風土の違いに着目し理解している。 ②南アジアと東南アジア世界の歴史的特質について、宗教や風土の違いに着目し多面的・多角的に考察している。 ③南アジアと東南アジア世界の歴史的特質について、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	13	
	西アジアと地中海周辺の国家形成 ①西アジアと地中海国家の歴史的特質について、ギリシア・ローマ文化やキリスト教の成立に着目し理解する。 ②西アジアと地中海国家の歴史的特質について、ギリシア・ローマ文化やキリスト教の成立に着目し多面的・多角的に考察する。 ③西アジアと地中海国家の歴史的特質について、見直しをもって学習に取り組む。	・イラン諸国家の興亡とイラン文明/ギリシア人の都市国家/ローマと地中海支配/キリスト教の成立と発展 ・バナーポイント、ワークシート	①西アジアと地中海国家の歴史的特質について、ギリシア・ローマ文化やキリスト教の成立に着目し理解している。 ②西アジアと地中海国家の歴史的特質について、ギリシア・ローマ文化やキリスト教の成立に着目し多面的・多角的に考察している。 ③西アジアと地中海国家の歴史的特質について、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	14	
定期考査			○	○		1		
2 学 期	イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 ①イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ②イスラーム世界の誕生とヨーロッパ世界の成立について、イスラーム文化や封建社会の成立に着目し理解する。 ③イスラーム世界の誕生と西ヨーロッパ世界の成立について、イスラーム文化や封建社会の成立に着目し多面的・多角的に考察する。 ④イスラーム世界の誕生と西ヨーロッパ世界の成立について、見直しをもって学習に取り組む。	・アラブの大征服とイスラーム教の成立/ヨーロッパ世界の形成 ・イスラーム教の諸地域への伝播/西アジアの動向 ・バナーポイント、ワークシート	①イスラーム世界の誕生と西ヨーロッパ世界の成立について、イスラーム文化や封建社会の成立に着目し理解している。 ②イスラーム世界の誕生と西ヨーロッパ世界の成立について、イスラーム文化や封建社会の成立に着目し多面的・多角的に考察している。 ③イスラーム世界の誕生と西ヨーロッパ世界の成立について、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	16	
	ヨーロッパ世界の変容と展開 ①封建社会の変容、衰退や東ヨーロッパ世界の展開について、教皇権や十字軍に着目し理解する。 ②封建社会の変容、衰退や東ヨーロッパ世界の展開について、教皇権や十字軍に着目し多面的・多角的に考察する。 ③封建社会の変容、衰退や東ヨーロッパ世界の展開について、見直しをもって学習に取り組む。	・西ヨーロッパの封建社会とその展開/東ヨーロッパ世界の展開/西ヨーロッパ世界の変容/西ヨーロッパの中世文化 ・バナーポイント、ワークシート	①封建社会の変容、衰退や東ヨーロッパ世界の展開について、教皇権や十字軍に着目し理解している。 ②封建社会の変容、衰退や東ヨーロッパ世界の展開について、教皇権や十字軍に着目し多面的・多角的に考察している。 ③封建社会の変容、衰退や東ヨーロッパ世界の展開について、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	16	
	定期考査			○	○		1	
	東アジア世界の展開とモンゴル帝国 ①宋の繁栄、文化とモンゴル帝国の成立・解体について、その地理的広がりに着目し理解する。 ②宋の繁栄、文化とモンゴル帝国の成立・解体について、その地理的広がりに着目し多面的・多角的に考察する。 ③宋の繁栄、文化とモンゴル帝国の成立・解体について、見直しをもって学習に取り組む。	・アジア諸地域の自立化と宋/モンゴルの大帝国/アジア交易世界の興隆 ・バナーポイント、ワークシート	①宋の繁栄・文化とモンゴル帝国の成立・解体について、その地理的広がりに着目し理解している。 ②宋の繁栄・文化とモンゴル帝国の成立・解体について、その地理的広がりに着目し多面的・多角的に考察している。 ③宋の繁栄・文化とモンゴル帝国の成立・解体について、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	16	
	アジアの諸帝国の繁栄 ①モンゴル帝国解体後のイスラーム諸帝国について、トルコ・イラン系民族の活動に着目し理解する。 ②モンゴル帝国解体後のイスラーム諸帝国について、トルコ・イラン系民族の活動に着目し多面的・多角的に考察する。 ③モンゴル帝国解体後のイスラーム諸帝国について、見直しをもって学習に取り組む。	・オスマン帝国とサファヴィー朝/ムガル帝国の興隆/清代の中国と隣接諸地域 ・バナーポイント、ワークシート	①モンゴル帝国解体後のイスラーム諸帝国について、トルコ・イラン系民族の活動に着目し理解している。 ②モンゴル帝国解体後のイスラーム諸帝国について、トルコ・イラン系民族の活動に着目し多面的・多角的に考察している。 ③モンゴル帝国解体後のイスラーム諸帝国について、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	16	
定期考査			○	○		1		
3 学 期	大交易・大交流の時代 近世ヨーロッパ世界の動向 ①ヨーロッパの海洋進出と主権国家体制の成立について、アメリカの植民地化や宗教改革、科学革命に着目し理解する。 ②ヨーロッパの海洋進出と主権国家体制の成立について、アメリカの植民地化や宗教改革、科学革命に着目し多面的・多角的に考察する。 ③ヨーロッパの海洋進出と主権国家体制の成立について、見直しをもって学習に取り組む。	・ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 ・ルネサンス/宗教改革/主権国家体制の成立/オランダ・イギリス・フランスの台頭/北欧・東欧の動向/科学革命と啓蒙思想 ・バナーポイント、ワークシート	①ヨーロッパの海洋進出と主権国家体制の成立について、アメリカの植民地化や宗教改革、科学革命に着目し理解している。 ②ヨーロッパの海洋進出と主権国家体制の成立について、アメリカの植民地化や宗教改革、科学革命に着目し多面的・多角的に考察している。 ③ヨーロッパの海洋進出と主権国家体制の成立について、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	19	
	定期考査			○	○		1	
							合計	140

科目（講座名）	日本史B	4単位	自由選択
教科書	『日本史B 新訂版』（実教出版）	担当教諭	
副教材	『新詳日本史』（浜島書店）		

学習の目標

- ・世界の動きと関連させながらわが国の歴史を俯瞰し、行為者の視点から考察する力を身につけさせる
- ・センター試験に対応できる力を身につけさせる

授業内容

原始から近世、現代のわが国の歴史について学ぶ

学習方法

ワークシート、発表など

評価の観点

関心・意欲・態度	ワークシートや発表などに積極的に取り組んでいる
思考・判断	発問の意図を理解し、適切に自己の考えをまとめている
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・発問に対し、適切な資料を用いている ・資料から読み取ったことから、思考の結果などを適切な方法で表現している
知識・理解	学習の結果をセンター試験の過去問解答などに反映できている

評価方法

定期考査・ワークシート・授業態度・授業出席率

地理歴史

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	5 2	日本文化のあけぼの 水稲農業の開始と社会生活の進展	<ul style="list-style-type: none"> ・日本最古の文化 ・縄文時代の社会と文化 ・弥生時代の社会と文化 ・小国の分立と邪馬台国 ・ヤマト政権の成立・発展と東アジア ・古墳の成立と発展 ・大陸文化の摂取 	<ul style="list-style-type: none"> ・列島の成立について理解させる。 ・環境変化から文化を考察させる。 ・水稲耕作の影響を考察させる。 ・小国の実態について理解させる。 ・東アジアの動向と関連させながら、政権の動きを考察させる。 ・古墳の変遷について考察させる。 ・渡来人の影響を考察させる。 ・推古朝から律令国家の成立までの流れを押さえ、その実態を理解させる。 ・天平文化の内容を理解させる。 ・桓武・嵯峨の改革を理解させる。 ・摂関政治の展開と国風文化発展の関連を考察させる。
	5			<ul style="list-style-type: none"> ・推古朝の政治と飛鳥文化 ・律令国家成立期の政治と文化 ・律令体制とその実態 ・天平文化 	
	6			<ul style="list-style-type: none"> ・平安初期の政治と文化 ・摂関政治と地方の動向 ・国風文化 	
2	9	5 6	中世社会の成立と文化の新機運 ・中世社会の成立と文化の新機運 ・武家社会の展開と室町文化	<ul style="list-style-type: none"> ・荘園公領制の形成と武士団 ・院政と平氏政権 ・鎌倉幕府の成立 ・武家政治の展開 ・鎌倉武士と農村生活 ・蒙古襲来と幕府の衰退 	<ul style="list-style-type: none"> ・武士団成立の背景を理解させる。 ・院政から武家政権誕生までの流れを押さえさせる。 ・鎌倉幕府の構造を理解させる。 ・武士の慣習・生活を理解させる。 ・蒙古襲来を東アジア情勢から考察させる。 ・新仏教について理解させる。 ・動乱の背景を押さえさせる。
	10			<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉文化 ・南北朝の動乱 	
	11			<ul style="list-style-type: none"> ・室町幕府の政治と外交 ・惣村の発展と応仁の乱 ・室町文化 	
	12			<ul style="list-style-type: none"> ・戦国大名の領国経営 ・ヨーロッパ人の来航 ・織豊政権 ・桃山文化 	
3	1	3 2	現代の日本と新しい文化	<ul style="list-style-type: none"> ・占領と民主改革 ・サンフランシスコ講和会議と安保体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・占領の実態と方針の変遷に留意しつつ、講和にいたる流れを押さえさせる。 ・経済成長からその後の国民生活について理解させる。 ・日本が置かれている課題を探り、行為者として何ができるか考えさせる。
	2			<ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長下の日本 ・経済大国日本と国民生活 ・世界史の転換と日本 	
	3				

科目（講座名）	世界史B	2単位	自由選択
教科書	世界史B新訂版(実教出版)	担当教諭	
副教材	ニューステージ世界史詳覧（浜島書店）		

学習の目標

人類・地域の歩みと現代的課題を認識し、歴史的な視点と将来の課題解決力の習得。

授業内容

2年次未習の部分の完成と全地域の歴史的 understanding のための講義と演習

学習方法

講義および、各單元ごとの作業課題。映像や、調べ学習を含む。

評価の観点

関心・意欲・態度	①積極的な習得の姿勢・意欲 ②レポート作成への取り組み
思考・判断	①歴史的事象の背景・意味の理解 ②歴史的事象の因果関係の理解
技能・表現	作業テーマやレポートをまとめる技能と、発表における表現力
知識・理解	基礎・基本的な歴史的事象・知識の定着

評価方法

單元ごとのレポートと学期末のレポートで評価する。

地理歴史

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	28	古代史	古代オリエント史	古代オリエントおよび古代地中海世界の概観を理解する。自分のテーマを設定し、学習を深める。
	5			古代ギリシャ史 古代ローマ史 インド史	
	6			中国史 殷・周・秦・漢	
	7			魏晋南北朝・隋・唐 朝鮮半島史	
2	9	28	中世史	中世ヨーロッパ史	中世ヨーロッパ世界の概観を理解する。自分のテーマを設定し、学習を深める。
	10			ゲルマン民族移動 フランク王国 中世キリスト教 封建社会 十字軍 後期中世	
				11	
	12			その後の展開	
3	1	16	古代・中世史	古代アメリカ史 アフリカ史	古代アメリカ世界およびアフリカ世界の概観を理解する。自分のテーマを設定し、学習を深める。
	2				
	3				

科目（講座名）	世界史B	4単位	自由選択
教科書	実教出版 世界史B 新訂版	担当教諭	
副教材			

学習の目標

人類・地域の歩みと現代的課題を認識し、歴史的な視点と将来の課題解決力の習得。

授業内容

2年次未習の部分の完成と全地域の歴史的 understanding のための講義と演習

学習方法

- ◎講義により知識・歴史的経緯の理解と習得
- ◎問題演習による歴史的 understanding の確認
- ◎夏季講習によるテーマ史的 understanding の構築

評価の観点

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ① 積極的な習得の姿勢・意欲 ② 自主的な史的事項の学習と定着 ③ 定着度
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ① 歴史的年代的因果関係 ② 歴史的同時代的理解・因果関係
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> ① 論述での表現力
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ① 定期考査的理解を超えた自由自在な理解

評価方法

- ◎定期考査
- ◎発問
- ◎問題演習

地理歴史

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点	
1	4	7	先史世界	◎人類の出現と文明	◎主体的な知識・推移の理解 ◎正確な定着	
		8	古代オリエント	◎文明の発展・興亡 ◎オリエント統一		
	5	8	古代地中海世界	◎エーゲ文明 ◎古代ギリシア ◎ヘレニズム ◎古代ローマ		
			1 2	中世西欧社会		◎変遷 ◎キリスト教
6	7	1 2	近代西欧社会	◎ルネサンス ◎大航海時代 ◎宗教改革 ◎絶対主義と主権国家 ◎市民社会の萌芽		
		1 0	インド通史	◎古代から独立までのインド通史・周辺地域の動向	◎主体的な理解 ◎応用力への拡大	
2	9	1 7	イスラーム通史	◎イスラーム圏の変遷 ◎宗教的文化的特質		
			11	8		戦後世界
	12					
3	1	6	まとめ	◎全時代的整理	◎総確認	
						2
						3

科目（講座名）		現代社会	3単位	必履修
教科書	第一学習社『高等学校 改訂版 現代社会』		担当教員	
副教材	第一学習社『新版 最新現代社会資料集 2023』			

学習の目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

授業内容

政治分野、経済分野、倫理分野

学習方法

講義、グループワーク、課題作成、プレゼンテーション、校外学習、外部講師による講義

評価の観点

関心・意欲・態度	社会的事象を総合的に考えようとする態度をもち、人間としての在り方生き方について自覚を深める。
思考・判断	社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。
技能・表現	様々な資料に接して、必要とする情報を収集・選択・活用する力を身につける。
知識・理解	各単元における基礎的基本的な知識を身につける。

評価方法

授業の取組または提出物、定期考査で評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	8	第2編現代社会と人間としての在り方生き方 第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 p 118からp 125まで (8)世論形成と政治参加	現代社会における諸課題を扱う中で、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。	・法に関する基本的な見方や考え方を身に付けさせるとともに基本的人権についても扱うこと。
	5	12	第2章 個人の尊重と法の支配 第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 p 52からp96まで 中間考査はここまで	グローバル化が進展する国際社会における政治や経済の動向に触れながら、国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考察させる。	
	6	12	第3章 p 97～p 117まで		
	7	7	第4章国際政治の動向と日本の役割 p 126～155まで 期末考査ここまで 第5章現代の社会生活と私たちの生活 p 156～p 180		
2	9	11	p 181～p 221 中間考査はここまで 第6章 国際経済の動向と日本の役割 p 222～p 247 第7章現代に生きる倫理 p 248～p 284 期末試験ここまで		現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。
	10	12			
	11	12			
	12	7	第一編私たちの生きる社会 p 6～p 32 第2編現代社会と人間としての在り方生き方 第1章 現代に生きる青年 p 38～p 51		

3	1 2 3	1	2学期の続き		
---	---------------------	---	--------	--	--

科目（講座名）	現代社会		2単位	自由選択
教科書	第一学習社『高等学校 改訂版 現代社会』		担当教員	
副教材				

学習の目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

授業内容

政治分野、経済分野、倫理分野

学習方法

講義、グループワーク、課題作成、プレゼンテーション、校外学習、外部講師による講義

評価の観点

関心・意欲・態度	社会的事象を総合的に考えようとする態度をもち、人間としての在り方生き方について自覚を深める。
思考・判断	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見出し、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って考察し、その過程や結果を表現することができる。
技能・表現	現代社会に関する基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、それを活用することができる。
知識・理解	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方について理解をしている。

評価方法

授業の取組または提出物

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	4	現代に生きる青年	地域の特徴、課題についてフィールドワークを通して考え、表現する。	法に関する基本的な見方や考え方を身に付けさせるとともに裁判員制度についても扱うこと。
	5	8	個人の尊重と法の支配	公共施設の見学を通して、社会のしくみや公的機関の役割についての理解を深める。	
	6	10	現代の民主政治と政治参加の意義		
	7	4	国際政治の動向と日本の役割		
2	9	8	現代の経済社会と私たちの生活	世界の国々について、情報収集し、国際関係についての理解を深める。	「市場経済の機能と限界」については、経済活動を支える私法に関する基本的な考え方についても触れること「金融」については、金融制度や資金の流れの変化などにも触れること。また、「個人や企業の経済活動における役割と責任」については、公害の防止と環境保全、消費者に関する問題などについても触れること。
	10	8	国際経済の動向と日本の役割	I C T機器を利用して、情報を収集し、発表資料を作成する。	
	11	10	現代に生きる倫理	地域の特徴、課題についてフィールドワークを通して考え、表現する。	
	12	4	私たちの生きる社会	公共施設の見学を通して、社会のしくみや公的機関の役割についての理解を深める。	
3	1	4	ともに生きる社会をめざして	現代社会の経済や各国の政治状況などを作業を通して深めていく。国際的視野・観点を高めていく。	「現代社会における諸課題」としては、生命、情報、環境などを扱うこと。
	2				
	3				

科目（講座名）	政治・経済	2単位	自由選択
教科書	実教出版『高校政治・経済 新訂版』	担当教員	
副教材	最新 政治経済資料集2023		

学習の目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

授業内容

政治分野（国内・国際）、経済分野（国内・国際）

学習方法

講義、問題演習、グループワーク、課題作成、外部講師による講義

評価の観点

関心・意欲・態度	現代社会と人間にかかわる諸問題に関心をもち、意欲的に課題を追究する。
思考・判断	様々な社会的事象から課題を見だし、広い視野に立って多面的・多角的に考察する。
技能・表現	考察の過程や結果を適切に表現する。
知識・理解	各単元における基礎的基本的な知識を身につける。

評価方法

定期考査、小テスト、問題演習や課題の取り組み

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	4	経済社会の変容	現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済のグローバル化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の仕組みや機能について理解させるとともに、その特質を把握させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。	マクロ経済の観点を中心に扱うこと。「市場経済の機能と限界」については、公害防止と環境保全、消費者に関する問題も扱うこと。また、「金融の仕組みと働き」については、金融に関する環境の変化にも触れること。
	5	8	現代経済のしくみ		
	6	10	現代経済と福祉の向上		
	7	4	世界経済と日本		
2	9	8	民主政治の基本原理	現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、基本的人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解させるとともに、民主政治の本質について把握させ、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。	「法の意義と機能」、「基本的人権の保障と法の支配」、「権利と義務の関係」については、法に関する基本的な見方や考え方を身に付けさせるとともに、裁判員制度を扱うこと。「民主政治の本質」については、世界の主な政治体制と関連させて扱うこと。また、「現代政治の特質」については、世論形成などについて具体的事例を取り上げて扱い、主権者としての政治に対する関心を高めることに留意すること。
	10	8	日本国憲法の基本的性格		
	11	10	日本の政治機構		
	12	4	現代日本の政治		
3	1	4	現代の国際政治	政治や経済などに関する基本的な理解を踏まえ、持続可能な社会の形成が求められる現代社会の諸課題を探究する活動を通して、望ましい解決の在り方について考察を深めさせる。	政治や経済の基本的な概念や理論の理解の上で、事実に基づいて多様な角度から探究し、理論と現実との相互関連を理解させること。
	2				
	3				